

テサロニケ人への手紙第一5章5-6節 「目を覚まして生きる」

### 1A 主が来られる時期

1B 時が知らされない主

2B しるしを与える主

### 2A 夜の盗人 5

1B 暗闇で眠る者たち

2B 突然の破滅

### 3A 光の子ども 6

1B 目を覚ましている者たち

2B 信仰と希望と愛の武具

## 本文

テサロニケ人への手紙第一5章を開いてください。私たちの聖書通読の学びは、先週で4章まで来ましたが、午後礼拝で、5章を一節ずつ見ていきます。今朝は、4-5節に注目します。「<sup>4</sup>しかし、兄弟たち。あなたがたは暗闇の中にいないので、その日が盗人のようにあなたがたを襲うことはありません。<sup>5</sup>あなたがたはみな、光の子ども、昼の子どもなのです。私たちは夜の者、闇の者ではありません。」

### 1A 主が来られる時期

私たちは前回、主イエスが天から降りて来られて、私たち生き残っている者が空中にまで引き上げられることを、4章から見ました。神が、ご自分の怒りから私たちを免れさせてくださいます。主は、地上に、罪や不正に対して正しい裁きを行われる時を定めておられます。その時から免れるのです。5章は、その主の御怒りの日が来ることを、パウロが強調します。聖霊の働きで、教会を通して、今は、正しさや聖さが地上でも証しされています。キリスト者による良い働き、愛による良い行いで、証しされています。けれども、それが取り除かれたら、主がご自分の怒りを地上に下されます。そのことについて、パウロは5章から話し始めます。

### 1B 時が知らされない主

1節で、「その時と時期については、あなたがたに書き送る必要はありません。」と書き始めています。イエス様は、「マルコ 13:32 その日、その時がいつなのかは、だれも知りません。天の御使いたちも子も知りません。父だけが知っておられます。」と言われました。これは、主が来られることについて、日時を設定するようなことは愚かだということが分かります。ネットなどで、時々、主が来られる日、携挙の日時を設定する言説が出てきますが、とにかく、そういったことは、みなさん無

視してください！イエスご自身にさえ隠されています。父のみが知っています。

## 2B しるしを与える主

その一方で、「その時と時期」について、テサロニケの人たちに、パウロは十分に教えており、そのことを彼ら自身が良くわきまえているということです。主が教会のために来られる携挙について、その日時は知らされていませんが、主が地上に戻って来られる再臨についての兆しは、知らされています。その兆しについては、イエス様は前もって多く語られました。

イエス様は、当時のユダヤ人たちに「この時代」という言葉を使われました。主が来られたことについてのしるしは、数多くありました。しかし、彼らはそれを無視して、天のしるしを与えろと要求しました。「マタ 16:2-3 イエスは彼らに答えられた。「夕方になると、あなたがたは『夕焼けだから晴れる』と言い、朝には『朝焼けでどんよりしているから、今日は荒れ模様だ』と言います。空模様を見分けることを知っていながら、時のしるしを見分けることはできないのですか。」主が来られたしるしは、数多くありました。その兆しを見れば、今は、メシアの時であることを見分けることができたはずです。天気予報を、空模様から行うのに、なぜ、時のしるしを見分けられないのか？と言っているのです。再臨についても、同じなのです。

イエス様は、十字架につけられる最後の週に、弟子たちに対して、世の終わりのしるしについて詳しく語られました。その一部を読みます。「マタ 24:7-13 民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、あちこちで飢饉と地震が起こります。しかし、これらはすべて産みの苦しみの始まりなのです。そのとき、人々はあなたがたを苦しみにあわせ、殺します。また、わたしの名のために、あなたがたはすべての国の人々に憎まれます。そのとき多くの人がつまずき、互いに裏切り、憎み合います。また、偽預言者が大勢現れて、多くの人を惑わします。不法がはびこるので、多くの人々の愛が冷えます。しかし、最後まで耐え忍ぶ人は救われます。」ここにあることは、今の時代に、兆しとして満ちているのではないのでしょうか？民族や国同士の戦争。飢饉や地震。そして、キリスト者への迫害。そして人々が裏切り、憎しみ合っていること。偽預言者が多くいること。不法によって、多くの人々の愛が冷えていることです。

そして、イエス様は「マタ 24:37 人の子の到来はノアの日と同じように実現するのです。」と言われました。ノアの時代というのは、どのような時代か？人々は増え広がり、文明も栄えます。しかし、「創世 5:5 地上に人の悪が増大し、その心に凶ることがみな、いつも悪に傾くのをご覧になった。」とあります。人の心に凶ることが悪に傾くこと、それで悪が増大することです。私たちが、今、そのことを世界で、社会の中で、みなさんの周囲で経験しているのではないのでしょうか？

さらに、イエス様は、はっきりと、荒らす忌まわしい者が聖所に立つことについて、オリーブ山で話されました。これは、イスラエルの都エルサレムで、神殿が建てられ、そこに反キリストが入って

行き、自分を神とすることです。そして、これはイスラエル人たちが世界から、そこに集まって来なければ実現しないことです。終わりの日には、イスラエルの人々が世界から集まって来て、神の国が立てられることが、数多く預言されています。すでにイスラエルは 1948 年 5 月 14 日に建てられました。イスラエルに対する神の働きかけが、すでに始まっています。

## 2A 夜の盗人 5

### 1B 暗闇で眠る者たち

けれども、主が来られるこれらのしるしに全く気づいていない人々が、数多くいます。いつもと変わらずに生活しています。主は、そのことについて、ノアの日のことを思い起こさせています。「マタイ 24:38 洪水前の日々にはノアが箱舟にはいるその日まで、人々は食べたり飲んだり、めとったり嫁いだりしていました。」日常生活で特段に何も起こっていないと思っている人々は、主が来られることについて、全く無頓着です。

イエス様は、人々が罪の中を歩んでいる時に、暗闇の中を歩んでいると言われます。「ヨハ 3:19-20 そのさばきとは、光が世に来ているのに、自分の行いが悪いために、人々が光よりも闇を愛したことである。悪を行う者はみな、光を憎み、その行いが明るみに出されることをおそれて、光のほうに来ない。」私たち人間は罪の中にいると、自分のしていることが分からなくなっています。そして、光が来ても、その時に自分のしていることが明らかにされてしまうので、拒みます。そうやって、本文にあるように「**暗闇の中**」にいるのです。

そして、夜は眠る時です。罪の中にいると、霊的にも眠っています。今、話していること、主が来られることや、聖い生活をしていくことなどに無関心です。無感覚になっていると言い換えてもいいです。「エペ 4:18-19 彼らは知性において暗くなり、彼らのうちにある無知と、頑なな心のゆえに、神のいのちから遠く離れています。無感覚になった彼らは、好色に身を任せて、あらゆる不潔な行いを貪るようになっていきます。」無知とありますが、これは単に情報や知識ないということではないです。知ろうとしない、という心の頑なさ、強情さを示しています。

それから、眠っているというのは、攻撃に対して全く無防備ということですね。自分が敵の餌食になっているのに全く気づきません。自分の思いが、サタンのなすがままに支配されていることにさえ気づかないのです。そして、眠っているというのは、動いていません。洪水が家を襲ってきたとしても、動こうとはしません。こういった状態が眠っているのであり、闇の中にも平然としていられるのです。

### 2B 突然の破滅

そのような眠っている状態だと、主が来られることが、突然の破滅として来るのだということを教えています。主は、ご自身が盗人のように来られることを、何度となく警告しておられました。「マタ

24:43-44 次のことは知っておきなさい。泥棒が夜の何時に来るかを知っていたら、家の主人は目を覚ましているでしょうし、自分の家に穴を開けられることはないでしょう。ですから、あなたがたも用心していなさい。人の子は思いがけない時に来るのです。」そして、ハルマゲドンの戦いについての預言で、警告しておられます。「黙 16:15 見よ、わたしは盗人のように来る。裸で歩き回って、恥ずかしい姿を人々に見られることのないように、目を覚まして衣を着ている者は幸いである」裸というのは、そのまま罪の中にいる自分がいて、キリストの義を身に着けていない状態のことです。

これまで、眠っているという状態を、キリストを信じていない人たちに当てはめていました。けれども、聖書は、信じているとされている者たちが実は眠っているということも教えています。サルディスにある教会に対する、イエス様の言葉です。「黙示 3:1b あなたがたの行いを知っている。あなたは、生きているとは名ばかりで、実は死んでいる。」と言われています。そして、次のように警告しておられるのです。「3:3 だから、どのように受け、聞いたのか思い起こし、それを守り、悔い改めなさい。目を覚まさないなら、わたしは盗人のように来る。わたしがいつあなたのところに来るか、あなたには決して分からない。」

霊的な無感覚や無関心は、私たちキリスト者にもその影響下に入りえます。ちょうど、船に乗っていて、穴が開いて外から浸水してくるような状態です。自分の考えていることが、キリストの香りを放たず、世の人と同じように考えているのです。そして、世と同じように考えていることにさえ、気づいていません。自分は生きていると思っているので、死んでしまっていることに気づきません。主からどのように受け、聞いたのかを思い起こして、それを守り、悔い改めないといけません。

### **3A 光の子ども 6**

#### **1B 目を覚ましている者たち**

しかし、本文には、私たちは暗闇の中におらず、光の子、昼の子であるとパウロが教えています。それは、主がすでにそうしてくださったということがあります。恵みによって、私たちは闇であったのに光となりました。

そして、次に私たちは、その光の中に留まらないといけません。パウロが、目を覚ましていることについて、ロマ書でこう教えました。「ロマ 13:11-13 さらにあなたがたは、今がどのような時であるか知っています。あなたがたが眠りからさめるべき時刻が、もう来ているのです。私たちが信じたときよりも、今は救いをもっと私たちに近づいているのですから。夜は深まり、昼は近づいて来ました。ですから私たちは、闇のわざを脱ぎ捨て、光の武具を身に着けようではありませんか。遊興や泥酔、淫乱や好色、争いやねたみの生活ではなく、昼らしい、品位のある生き方をしようではありませんか。」救いが近づいている、つまり、主が来られるのが近づいています。そうすると、ちょうどイエス様が十字架に付けられる前に、闇の力が強く働いたように、闇の力が働いています。ですから、私たちは積極的に闇のわざを脱ぎ捨てる必要があります。積極的に光の武具を身に着ける

必要があります。

そして、祈りが重要です。「コロ 4:2 たゆみなく祈りなさい。感謝をもって祈りつつ、目を覚ましていなさい。」イエス様が、目を覚まして祈っていなさい、と、ペテロたちに言いつけておられました。ところが彼らは眠っていました。その闇の力によって、みながつまずいてしまいました。「エペ 6:18 あらゆる祈りと願いによって、どんなときにも御霊によって祈りなさい。そのために、目を覚ましていて、すべての聖徒のために、忍耐の限りを尽くして祈りなさい。」みなさんは、祈っているでしょうか？互いのために祈っていますか？教会のために祈っていますか？周囲のために祈っていますか？国のためには？他の国のキリスト者たちのためには？その祈りの中で、見るべきものを見ることができます。祈りは、目を覚ましていくのを手助けします。

## 2B 信仰と希望と愛の武具

そして最後に、目を覚ましているということは、戦っている姿です。パウロは、昼の者として、以下の武具を身に着けるようにいっています。「5:8 しかし、私たちは昼の者なので、信仰と愛の胸当てを着け、救いの望みとかぶとをかぶり、身を慎んでいましょう。」信仰と希望と愛ですね。この三つが、テサロニケの人たちの特徴でありましたが、ますますそうしていくように勧めています。主を信じ、みことばを信じて、それが生きて働いていることを確認しましょう。次に、愛していますか？兄弟を愛していますか？その人の足を洗っていますか？それから、主の再臨を仰ぎ見て、目を覚ますのです。